



# ねんきん定期便 & ねんきんネット

## 将来の公的年金額をチェックしよう

特定社会保険労務士 **綱川 揚佐氏** よう すけ

図1 ねんきん定期便の見本例(50歳未満の場合)

料金後納郵便  
親展

大切なお知らせ

**ねんきん定期便です**

差出人  
**日本年金機構**  
Japan Pension Service  
〒168-8505 東京都杉並区高井戸西三丁目5番24号

ご案内は内側にあります。  
矢印の方向へゆっくりはがしてご覧ください。  
(水に濡れている場合は、よく乾かしてからおはがしください。)

照会番号	公務員共済の加入者番号	私学共済の加入者番号	
999 999 999 999			

※お問い合わせの際は、照会番号をお知らせください。

**1. これまでの年金加入期間** (老齢年金の受け取りには、原則として300月以上の受給資格期間が必要です。なお、平成29年6月以降については、原則として120月以上の受給資格期間が必要です。)

国民年金 (a)			船員保険 (c)	年金加入期間 合計 (未納月数を除く) (a + b + c)	合算対象期間等 (うち特定期間) (d)	受給資格期間 (a + b + c + d)
第1号被保険者 (未納月数を除く)	第3号被保険者 (未納月数を除く)	国民年金 計 (未納月数を除く)				
25 月	6 月	31 月	0 月			
厚生年金保険 (b)						
一般厚生年金						
234 月	0 月	0 月	234 月	265 月	0 月 ( 月)	265 月

**2. これまでの加入実績に応じた年金額と  
【参考】これまでの保険料納付額 (累計額)**

加入実績に応じた年金額 (年額)	保険料納付額 (累計額)
(1) 国民年金 老齢基礎年金 430,238 円	国民年金保険料 (第1号被保険者) 299,100 円
(2) 厚生年金保険 老齢厚生年金 513,771 円	厚生年金保険料 (被保険者負担額) 291,510 円
一般厚生年金被保険者期間 公務員厚生年金被保険者期間 (国家公務員・地方公務員) 私学共済厚生年金被保険者期間 (私立学校の教職員)	0 円 0 円 0 円
(1) と (2) の合計	7,590,610 円

この「ねんきん定期便」の表示内容については、[ねんきん定期便 見方](#) [検索](#) [通知書の見方を調べる/日本年金機構](#) をご覧ください。

現時点での国民年金、厚生年金の加入期間が記載されています。国民年金は種別ごとの内訳、厚生年金は民間、公務員、私立学校の内訳が、最後に合計が記載されています。

現時点までに支払った年金保険料に基づいた年金額(年額)が記載されています。将来の年金保険料の払い込みについては考慮されないため、年金加入歴が短い人であればあるほど、この額は少なくなります。

これまで年金保険料をいくら支払ったのかが記載されています。厚生年金は事業主負担分を除いた個人負担分のみです。

### 毎年誕生月に届く「ねんきん定期便」は役立つ

厚生年金や国民年金の加入者には、毎年誕生月に「ねんきん定期便」が送られてくることをご存じだろうか。ねんきん定期便には、その時点で計算された将来の公的年金額が書かれている。公的年金加入者自らがアクションを起こさなくても毎年自動的に送られてくるので大変便利だ。老後のマネープランを組み立てるうえでも、このねんきん定期便を役立てない手はないだろう。

### 50歳未満が50歳以上で内容が異なるねんきん定期便

ねんきん定期便が届くときの年齢が50歳未満なのか、50歳以上なのかによって、その記載内容は異なる。50歳未満の人に届くねんきん定期便には、現時点までに支払った年金保険料に基づいた年金額が記載されている(図1)。一方、50歳以上の人に届くねんきん定期便には、現時点の状態のまま60歳(60歳以上の方は現時点)まで年金加入を続け、60歳(60歳以上の方は現時点)で年金加

入をやめた場合にももらえる年金見込額が記載されている。

いずれの場合も、加給年金などの各種加算額や厚生年金基金の代行部分などは表示されていない点、受給時点で厚生年金に加入していない場合の金額である点は注意が必要だ。

### 公的年金の加入状況がいつでも確認できる「ねんきんネット」

インターネット上で利用できる「ねんきんネット」(図2)では、登録すれば以下のような公的年金に関する

2018.9 1

2018年5月1日に全面施行された改正確定拠出年金(DC)法では、DC加入者への継続投資教育が配慮義務から努力義務へと格上げされた。これによって投資教育の重要性が再認識され、事業主の関心も高まりつつある。

「人生100年時代」と呼ばれる昨今、DC導入企業では、従業員に提供する投資教育において、「DC制度を含めた老後の生活設計」が軸に据えられることが多くなってきた。そのような中で従業員に対し、老後の生活設計の

ベースになる「公的年金」がいくらくらいなのか把握できる「ねんきん定期便」と「ねんきんネット」について説明するケースが増えているという。

そこで今回は、公的年金の実務に詳しい特定社会保険労務士の綱川揚佐氏に、「ねんきん定期便」と「ねんきんネット」の見方や活用方法について解説していただく。今後の加入者への投資教育にぜひ役立てていただきたい。

**図2**  
ねんきんネットのTOP画面  
URL [https://www.nenkin.go.jp/n\\_net/](https://www.nenkin.go.jp/n_net/)



**1 年金見込額**

各受給期間における金額の内訳を表示する場合は【詳細】ボタンを押してください。(別ウィンドウで開きます)

※年金額は物価・賃金の変動に応じて年度ごとに改定される仕組みとなっており、実際には受け取られる年齢の年金額は、「ねんきんネット」による試算結果と異なる可能性があります。  
なお、「ねんきんネット」による試算結果は直近年度の年金額改定を反映しています。  
※「ねんきんネット」では、配偶者や被扶養者等の情報を反映していないため、実際に受け取られる年金額は、「ねんきんネット」による試算結果と異なる可能性があります。

受給期間	年金見込額 (月額)	支給停止見込額 (月額)	受給予定年金見込額 (月額)	詳細情報表示
65歳01ヶ月 ~	137,422	0円	137,422	<a href="#">詳細</a>

※△はマイナスを表します。例として、支給停止見込額欄に△10,000円と表示されている場合、年金見込額欄の金額から10,000円差し引かれた金額が受給予定年金見込額欄の金額となります。

[支給停止額の説明はこちら](#) をご覧ください。(別ウィンドウで開きます)

**図3**  
ねんきんネットの「年金見込額試算」ページの見本例

公的年金の加入状況が現状のまま60歳まで続いたと仮定したとして受け取れる年金見込額(月額)が表示されます。

さまざまな情報を確認できる。

- これまでの年金加入記録の確認
- 年金見込額の試算
- 持ち主不明記録の検索
- ねんきん定期便などの通知書の確認
- 国民年金の追納、後納の確認
- 年金に関する届書の作成
- 年金に関する通知書の再交付申請

中でも、「年金見込額試算」ページにある、今と同じ労働条件で、60歳まで公的年金に加入し続けた場合の年金見込額が素早く試算できる「かんたん試算」が便利だ(図3)。細か

い条件はさておいて、現時点での年金見込額をざっくりつかみたいなら、「かんたん試算」で十分だろう。さらにねんきんネットでは、今後の職業や見込み収入の変動を反映させた金額をシミュレーションしてくれる「質問形式で試算」、受給年齢の繰り上げや繰り下げ、国民年金保険料の後納制度なども反映してくれる「詳細な条件で試算」も可能だ。こうした機能を活用すれば、より正確な年金見込額を把握できるだろう。

\* \* \* \* \*

老後のマネープランの基本は、「老後に必要な金額」と「将来もらえる予定の金額(公的年金など)」を把握することだ。これがわかれば、その差額である「自前で備えなければならない金額」も見えてくる。

ねんきん定期便やねんきんネットは、将来の公的年金額が把握できる重要アイテムだ。ぜひ従業員の方にこのアイテムのことを伝えていただき、老後の生活設計や今後のDC運用において有効活用していただくことを切に望みたい。

DC